

鈴鹿市立明生小学校

明生の旗高く

＜ 学校教育目標 ＞

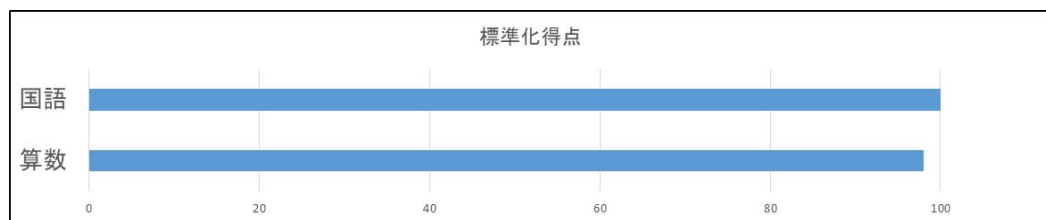
地域とともに
明るく元気に生きる
明生の子

「学力・学習状況調査」の結果概要と今後の取組について

本年4月に6年生を対象に実施された「令和5年度全国学力・学習状況調査」の結果が文部科学省から公表されました。この調査は、児童の学力学習状況を把握し、授業や生活習慣の改善に役立てることを目的としています。

本校では、実施終了後、全教員で解答を採点し、結果を分析し、今後の授業改善にいかしています。解答用紙からは、記述式の文章で説明する問題でも、子どもたちが諦めずに最後まで解答しようとするがんばりが感じられました。また、学校運営協議会でも調査結果をお伝えし、ご意見をいただきました。今後は、成果や課題を学校・家庭・地域で共有し、取組をさらに充実していきたいと思ひます。

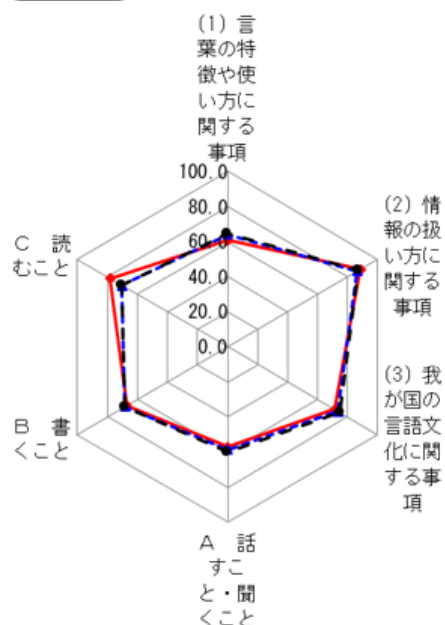
1 各教科の調査結果から



※標準化得点とは
全国平均が100、標準
偏差が10となるよう
標準化された得点

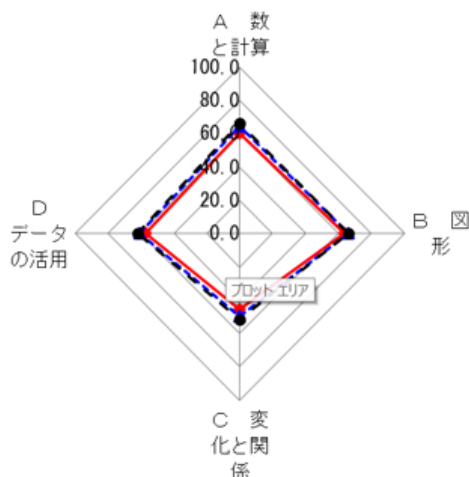
国語

● 貴校
▲ 三重県（公立）
■ 全国（公立）



算数

● 貴校
▲ 三重県（公立）
■ 全国（公立）



国語は100で全国平均と同じ、算数は98で全国平均より少し低い結果となりました。各教科の領域別に見ても、特に苦手としているところもなく、国や県とほぼ同じような結果となっています。ただ、算数の無答率が少し高い傾向にあり子どもたちが苦手としていることがうかがえました。

① 国語では

- 「人物像を具体的に想像することができるかどうかをみる」「話し言葉と書き言葉との違いに気付くことができるかどうかをみる」「登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができ

るかどうかをみる」設問は優れていた。

- 「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる」設問に課題がみられた。

② 算数では

- 「折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる」設問には優れていた。
- 「円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができるかどうかをみる」「計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる」設問に課題が見られた。

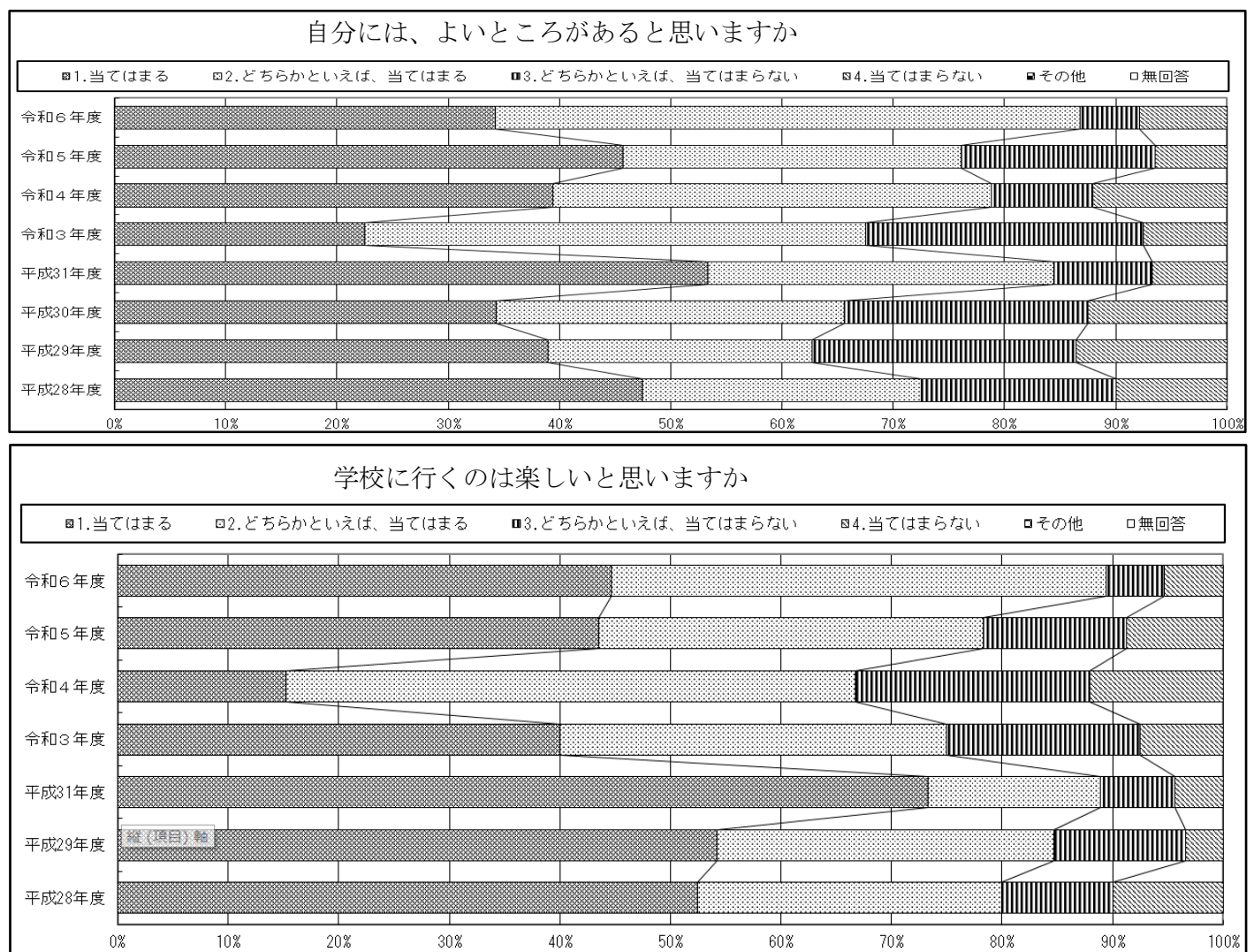
③ 回答形式では

「選択式」「短答式」「記述式」のうち国語でも算数でも「短答式」の回答方法の設問に大きな課題がみられた。

2 児童生徒質問紙から

「朝食の喫食率」「決まった時間の就寝・起床」など生活習慣に若干改善の必要性がみられました。

平日1時間以上「テレビゲームをする74%」「SNSや動画視聴する66%」であり特にSNS・動画視聴は県・国より長時間の傾向があります。



3 今後の取り組み

自己肯定感が高まり、学校に行くのが楽しいという気持ちを土台に、学習意欲を高め、他者の意見を聴き合う関係の中で授業を行い、自分の思いを具体的な言葉で表現できる力を育てていきます。